

られています。南端部南面ではちょうど中央付近で和泉砂岩と緑泥片岩の境界が認められます(写真6)。

また、南西コーナー部分の石積みは、丸みを持たせて特に精緻な切り込みはぎにより積まれており、他の部分とやや技術的に異なることから改修の可能性も考えられます(写真2)。

土盛部分 二箇所について部分的に掘り下げたところ、平成17年度の調査成果と同様に黄橙色土で上面を突き固めていることがわかりました。その直下は細砂となりますが、0.5〜1m下にも黄橙色の土があり、その上面には石材を加工した際に出たと思われる和泉砂岩の割り石が詰められていました(写真5)。



写真1 布積み部分



写真2 精緻な切り込みはぎ部



写真3 背面緑泥片岩石堤(H17調査)



写真4 土盛南東コーナー部石積み(東から)



写真5 割り石出土状況



写真6 水軒堤防石堤南端部(南西から)

この土盛の南面は、石堤南側面と揃うように緑泥片岩で石積みがなされています。補足調査では、この石積みは南東のコーナー部でカーブを描いて背面(東側面)に続いており、東に進むにつれ粗雑になることが観察できました(写真4)。

基底部分 南側面の一部を石堤底下で掘り下げたところ、緑泥片岩の割り石を敷きその上に石堤を築いていることがわかりました。

また、石堤の南側には、基底部の高さで石を敷き詰めていたことが確認できました。西半部は敷石が抜けてしまったと思われる。石堤の土台となる土を波による侵食から守るためのものと考えられます(写真6下)。

・堤防の規模

平成17年度の調査成果とあわせて水軒堤防のおおよその規模がわかってきました。調査部分で高さ約4.2m、上端幅8〜9m(このうち石堤上端幅約3.5m)、石堤西側面(海側)傾斜角約40度、石堤東側面傾斜角53度(H17調査)、南側面傾斜角約50度です。この堤防の長さは文献や聞き取り調査からの推定

となりますが、1kmあまりになると思われます(調査は未実施ですが、この南北にはさらに裏堤が続くとされています)。

・築造年代

出土遺物がなく、築造年代は確定できていないのが現状です。しかし、石積の技法、石を切り出すときにつけられた矢穴痕の形状から考えて18世紀代の築造の可能性を考えています。

(佐々木)